



株式会社 石井ゴム



代表取締役社長
いし い あきこ
石井 晶子 さん



ゴム素材のノウハウを元に製品の企画提案から量産品まで対応

天候によっても接着の状態が変わるほどに繊細なゴム材料。もともとゴムの材料メーカーとして創業したノウハウはゴムの材料加工に転じた今も取引先の心強い支えとなっています。「地域社会への貢献」を目標に誰もが必要とする製品の開発に力を入れてきた当社が今注意を払っているのが、品質の保持と検査体制です。特にいっそうの品質向上を目指して平成29年8月には本社工場に隣接する新工場に真空プレス機を導入・稼働を始めます。さらにそれを機に社内に女性が多い特徴を生かして、女性ならではの視点から一般生活用品の市場への参入も予定しています。

- 主な事業内容
医療機器用ゴム製品、
自動車用、釣り具用品等製造
- 主な取引先(納入先)
(株)湯山製作所、(株)釣研、第一精工(株)

住 所 / 〒570-0047
大阪府守口市寺方元町2-1-23
TEL / 06-6993-4652
FAX / 06-6993-4653
創 業 / 昭和60年3月
設 立 / 平成 3年5月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 9名

異物混入排除、医療分野で実績 協力会社と用途展開に対応

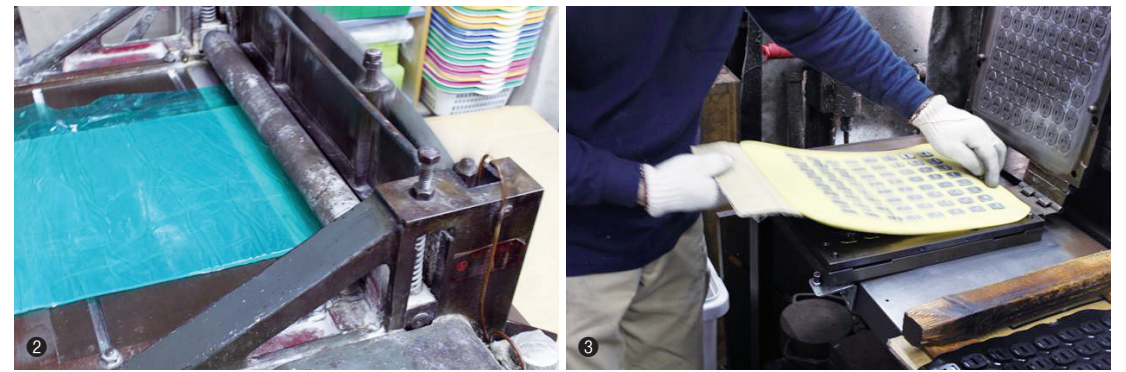
事業内容と沿革

真面目なものづくりで医療分野を主に業容拡大

昭和60年3月に大阪市東成区でゴムの材料メーカーとして創業した同社は、平成3年5月に現在の地へ移転し、同時に有限会社化してゴムの材料加工に乗り出した。平成16年3月には株式会社化して「真面目なものづくり」をモットーに、徐々に業容を拡大してきた。

同社の製品のうち半分以上が医薬品を分包する機械部品などの医療分野で使用される。医療分野以外では、レジャー用品の浮きゴムや自動車のドア部分に用いるクッションゴムなどを製造している。

これらの分野で長年培ってきた技術、品質が認められ、現在もさまざまな分野への進出が具体化しつつある。このため近隣の協力会社とも広く連携してゴムと金属との混合部品の生産も行っている。そして、多用途の製品に対し、短納期で対応できる体制を整えている。同社は女性社長のもと、女性従業員の積極的な雇用や登用を行い、ゴム製品以外のスポンジや小ロットのゴム・スポンジ加工品にも対応するなど、積み重ねてきた実績による自信が明るい職場を作っているのだ。



- ①明るい職場環境も魅力の1つ
- ②自動機による材料の裁断
- ③独自の治具を使って成型
- ④ゴム材料をセットする
- ⑤出荷前に測定器で検査

強み

徹底して異物混入を防ぐ、最上位の品質

同社が扱う製品は医療分野向けが主なので、精度だけでなく、異物の混入などには特に気を使わねばならない。金型に材料を仕込んで加熱によって製品を作り上げるが、0.1mmの異物であっても熱によって2mmから3mmに拡大することもある。特に医薬品向けに多く使用されているシリコンゴムは透明なため、異物の混入が目につきやすく、それによって不良品が生まれる可能性が高くなる。

しかし、同社では工程の始めの材料裁断時にカーテンで覆い異物混入を防ぐほか、自動機以外にも人手でシートごとに裁断を行うことで、静電気も防止し、異物の付着を防いでいる。また、工程の要所要所に検査を組み入れている。これらの対策の結果、品質異常の数量は年を追うごとに激減しており、主要取引先が独自で設定している品質のランクで最上位のAを取得するまでに至っている。

異物に対する取り組み以外にも、医療機器部品は多品種・小ロット・短納期であるため、金型製作の打合せや、製品への細かいアドバイスも行うことで、無駄が最小限になるよう工夫している。

取り組み

協力会社と新材料、用途開発なども取り組む

同社は協力会社との取り組みも活発に行っている。顧客から試作を依頼された場合、もともと材料メーカーだったノウハウを生かして適材のアドバイスをを行うほか、日頃から材料メーカーと協力して新材料の開発にも力を入れている。

例えば夜釣りをするときを使う蓄光タイプの浮きゴムは太陽光やライトの明かりから紫外線を吸収して発光する材料であり、夜光による集魚効果を狙うものとして愛好者は多い。

このほか量産化する場合も、量産に適した材料、形状であるか、顧客と打ち合わせを行い、金型業者とも金型製造によるメリットを最大限引き出すため、話し合いを重ねている。

シリコンゴムはシリカを補強材として混ぜ込むことが多く、シリカの量が多いほど不透明となり、かつゴム硬度が高くなる。多様化する用途に向けてこれらのゴムだけでなく、協力会社と連携してプラスチック、金属、スポンジなどの製品にも対応を広げている。

今後の展開

真空プレス機を導入 一般家庭用品市場に参入

そして今後は、現在の本社工場の横に新工場が完成、稼働を始める計画だ。この新しい工場には真空プレス機を導入する予定である。これを導入することによって、さらに製品の精度が向上し、顧客の高度化する要求にも応えられるようになる。

現在の工場では作業員1名につき4台の機械を担当し、コストの低減に対応している。これら熟練工のノウハウは今後、全社員で共有していく予定である。そして、さらなるコスト低減と同時に品質の保持・向上の両立が可能な体制を目指す。

また、ゴムの新材料をテストして検証する過程もシステム化する。これからは医療分野を中心とした部品の供給を事業の柱としていくが、職場はパート従業員も含めて女性が多く、今後はこの女性の視点を生かしたユニークな一般家庭用品を製造していくことも計画している。すでに取得している特許もあり、準備は着々と整えられている。